

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270800265		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ(高津②)		
所在地	島根県益田市高津四丁目11番16号		
自己評価作成日	2021年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和3年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和3年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いや気持ちを考え、職員のペースで支援するのではなく、ご本人のリズムに合わせた対応をすることで、安定した生活が送れるように努めている。また、コミュニケーションの時間を多く持つようにし、家庭的な雰囲気の中で生活できるような環境作りに心がけている。今までの生活歴や過ごし方を大切に、残存機能に目を向け、役割を持っていただくことで、できる事を継続して行えるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本海を見下ろす高台の住宅地の中にあり、山や川からも離れており自然災害には合にくい場所にある。建物は民家を利用した和風で落ち着いた雰囲気が感じられる。管理者を含み職員の経験年数も長く、職員、利用者共に入れ替わりも少なく安定している。この地域の自治会館が建物のすぐ隣にあることから、以前は何かと交流が盛んだったが、コロナでほとんどが中止になっており外部との関わりは激減状態。外に出にくい状況の中でできるだけ利用者と楽しい時間を過ごすこと、コミュニケーションを深めることに重点をおいている様子がうかがえた。管理者はいい職場環境がいいケアに繋がると考えており、ストレスチェックを取り入れたり、会議での意見から業務改善にも取り組んでいる。コロナ禍で動きが制限される中でも、利用者個々の残存機能が低下しないよう、取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回自己評価表を使用し、理念に基づいた振り返りを実施している。よりよいケアに繋げるため、職員会議では全体の振り返りをし、ケアの統一化を図るように努めている。	職員1人1人が毎月評価表を記入するようになっていいる。理念に関すること、日常生活援助、健康管理、情報交換等8項目にわたって評価しており、管理者が出た意見を取りまとめ、毎月の会議の際全員で検討するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に実施される自治会の清掃作業に参加し、地域との繋がりを大事にしている。	隣に自治会の建物があり、以前は何かと集まりがあり参加していたが、コロナでほとんどのことが中止になっている。年に数回の地区の清掃活動だけ職員が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の方への対応相談もあり、事業所での実践内容を踏まえて、認知症ケアをお伝えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の施設内状況、取り組んでいる内容について報告し、取り上げられた意見や助言などは、ホームへ反映し、活かしていくようにしている。	今年度はコロナで集合した形での会議は行っていない。以前からの参加者である、民生委員、NPOの理事、交流のある居宅のケアマネ、市の福祉課等の方々に状況報告を送り意見を求め開催し、質問、意見、要望等に返答するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で判断することが難しい内容が発生した際は、市町村担当者に相談し、解決を図っている。	運営推進会議での関わりは以前から続いており、専門的な助言をもらっているが、担当課とのやり取りは本社が一括して行っているため直接的には少ない。認定調査での関わりはありいい関係は築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束、権利擁護に関する勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。また、3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会の開催、職員会議(月1回)では身体拘束の状況確認を行っている。	虐待を含めて年2回自己チェック表を用いてケアの振り返りを行っている。管理者は不適切ケアをチェックするための評価表も独自に作成しており、併せて身体拘束のないケアの実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止のための自己チェック、職員への個別面談を実施している。高齢者虐待防止の勉強会を行い、不適切ケアの理解と認識の強化に向けた取り組みを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様がおり、関係者との関わりがある。機会あるごとに職員への説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所でのケアに関する考え方や取り組み状況、対応可能な範囲、可能性として考えられるリスクなどについて具体的に詳しく説明し、ご家族に同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを大事にし、意見や要望など、話しやすい雰囲気作りに努めている。入居者様の言葉、様子から思いを察する努力をし、意見等はミーティングで話し合い、ケアに繋げている。	今までは年1回家族会を開催していたが、コロナで中止。日頃の様子は主に電話で行い意見を求めている。担当から入所者1人1人の生活の様子を写真に撮り便りを作成。字が書ける人にはコメントを書いてもらい送っている。本社からはアンケートの実施や季刊誌が送付されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回のミーティングを設定し、職員の意見などを聞くとともに日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。また、定期的に個別面談を行い、意見や要望等の確認をしている。	年2回虐待チェック表を提出する前後に個人面談をしている。管理者からは職員のコロナのストレスを心配する言葉が聞かれたが、解消法がなかなか見つからない現状もあり、コミュニケーションをとりながら乗り切りたい思いが感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は職員個々の状況を把握し、体調や状況に合わせ、働きやすい環境整備に努めている。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修の機会を確保し、ケア習熟に繋げている。また、研修後は報告書の提出をし職員間で共有、現場で活かすように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にGH連絡会があるが、感染症対策により、休止中。年2回の交流会も開催が難しく、交流する機会は持てなかった。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談を行い、自宅または施設へ訪問している。ご本人の状態や思い、生活状況を把握するように努め、不安軽減と安心できる生活を送れるよう、必要に応じて、体験入居を実施し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはこれまでの経緯について確認している。ご家族の苦労や思いなども把握し、ご家族の思いを受け止めながら、信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や思いの把握に努め、必要とされている支援内容を見極めるように努めている。ご家族と一緒に話し合い、必要に応じて他のサービスの検討もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員優先の介助ではなく、残存能力を活かせる場面作りに努めている。また、入居者様は人生の先輩であることを職員が認識し、ご本人の思いに共感するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添い、入居者様の状態や気づきを細かく報告しながら、情報共有に努め、ご本人を支えていくための協力関係を築くように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策により、出かけることはできなかったが、電話などで関係が途切れないように支援している。	自宅に行っていたがコロナで中止。スマホで家や畑、仏壇等の画像を送ってもらい見ることができるように支援している。比較的介護度の軽い方はオンラインの認識ができ面会を楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性について情報共有し、席の配慮、職員の援助にて関係性が円滑になるように支援している。心身の状態等で変化することもあるので注意し、その時に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、アセスメント、支援状況等の情報提供をし、連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などから思いを読み取るようにし、意向等の把握に努めている。意思疎通が難しい方についてはご家族等からも情報を得るようにし、ご本人の気持ちにそって検討している。	改まって話を持ち掛けてもなかなか出てこないの、普段の会話の中からキャッチし、思いを想像しくみ取るようにしている。お便りに書かれるコメントが精一杯の方がほとんどだが、思いの把握には繋がっている。	残存能力を生かした個別援助の充実に努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ケアマネから聞き取りをし、多くの情報を得るように心がけているが、入居後も引き続き、情報収集に努め、ご本人との関わりの中や会話の中からも少しずつ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムで過ごせるように入居者様一人ひとりの過ごし方を把握し、対応している。日々、変化する心身状態、生活の様子などから体調を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中から思いや意見を確認し、反映に繋げている。アセスメントを含め、意見交換やカンファレンスを開催している。	定期的にモニタリングを記入し、6か月に1回プランの見直しを行っているが、担当者会議を含めて集合して開催することがコロナのためできないので、事前に電話等で意見を聞き計画作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の気づきや状態変化についてはミーティング、伝達記録を活用し、情報共有に努めている。個々の介護記録にも記載し、対応の統一化を図っている。また記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせて、往診、通院等の支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方、民生委員の方が出席されており、地域行事などの情報交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医で往診対応可能であれば、主治医変更は行っていない。往診対応が難しければ、往診対応可能な病院の中から選択していただいている。状態の変化に応じて主治医、ご家族に相談し、専門医の受診をしている。	かかりつけ医を継続することも、協力医に変更することもできるが、往診対応ができることとしており、現在内科の2人のドクターの往診を受けている。半数以上の方は精神科の受診を必要としており、職員が受診介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員不在時、変化に気づいた時は必要に応じて適切な医療につなげ、報告などで連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の情報を医療機関に提供している。病状や入院時の状態については相談員を通じて情報共有し、退院調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定めている。ご本人の状況に応じて、ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行い、状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人の思いを探り、支援している。	平均介護度が軽くなっており、現在看取り対象者はいない。協力医は看取り対応も可能なため、今後対象者が出た場合は、関係者で話し合いながら取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応等の発生に備えて年1回は職員会議等で確認し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、入居者様含め、年2回総合避難訓練、年1回非常災害避難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけており、ご理解いただいている。(今年度、感染対策により、地域の方の参加なし)	高台の住宅地にあり、海、山、川からも遠く自然災害には合いにくいいため、主に火災、地震を想定して避難訓練を行っている。夜間帯、日勤帯等に分けて2ユニット合同で実施している。備蓄もある程度用意して有事に備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、意思を優先するような声かけ、対応に努めている。勉強会の際、対応についての再確認をし、職員の意識向上を図るとともに、振り返りを行っている。	自己評価表の中に対象項目があり定期的にチェックできている。さりげない声掛け、方言の使い方など気になる場面があったときは、ミーティング等で話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とのコミュニケーションを通して、ご本人の思いや気持ちを含めてのケアの再確認をすることが増えた。ご本人の行動をしばらく様子を見ることで、気持ちに沿った支援に繋げることができた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間で区切った対応はせず、ご本人のペースを大事にしている。状態、体調に合わせた配慮をし、その時のご本人の気持ちを尊重した対応としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人の意向で決めており、見守り、支援が必要であれば、援助している。自己決定が難しい方、介助の必要な方については持っている好みの衣類の中から気候等を考え、ご本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、野菜皮むきなど、入居者様ができる家事を職員と一緒にするように努めている。職員も入居者様と同じテーブルで食事をし、環境作りに配慮している。	立位が難しい人はイスに座って、できる作業を職員と一緒にするようにしている。食事前の時間は話をしたり、コミュニケーションをとる時間としており、職員も全員一緒にテーブルを囲み楽しいひと時になるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合わせた食事形態で提供し、嗜好物についても確認している。食事メニューや摂取量は毎日、記録し、情報を共有している。水分摂取量にも気をつけ、摂取量確保できるよう、さまざまな飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っている。義歯の方は就寝前に義歯洗浄、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、定時誘導はせず、排泄チェック表を基にご本人の動き等から排泄を読み取り、個別に対応している。尿意を大事にし、トイレでの排泄が継続できるように支援している。	半数以上の方は概ね自立。紙おむつの方は1名。特に決まってこちらから声がけするのではなく、動きを見ながら必要な支援をするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回は食事の中で乳製品を取り入れ、水分摂取量の少ない方には定期的に水分を提供し、自然排便できるように取り組んでいる。十分な食事量や水分量を確保するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の間隔を見ながら声かけをしている。曜日や時間帯の希望には沿えていないが、入浴前には希望を確認し、入浴していただいている。	家庭用のやや大きめの浴槽のため介護度5の方はシャワー浴で対応。週2回の回数を確保し、午後の夕方に近い時間帯には入るようにしている。嫌いな方の場合は無理強いせず、翌日にしたり気分に合わせて対応するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、必要に応じて休息の時間を取り入れている。一人ひとりの体調や状態を見ながら、その方に合わせた生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を把握できるよう、服薬ファイルやお薬手帳を整理している。服薬時、確実に服用できるよう必要な方にはゼリーの使用等、ご本人に合わせた介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮していただけるように、生活歴を活かし、今までされてきた作業、できる事はお願いしている。その都度、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から散歩等の要望があった場合や天候の良い日には外出の援助をし、季節を肌で感じていただき、心身の活性に繋がるよう援助している。	コロナのためかなり少なくなっているが、近隣を散歩したり、短時間でもドライブに出かけるようにしている。ぐるっと近くを回るだけでも喜ばれるため、天候に合わせて外気に触れる機会を持つようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にあることで、安心感を持たれる方については、ご家族同意の上、少額のお金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話があった際、取次ぎをしている。携帯電話を所持している方もおられ、操作に迷われた時は援助している。毎月のひなたぼっこ便りには、一言記入していただき、難しい方はご本人の言われたことを代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調等で温度調整をしている。季節を感じるができるよう、ホール内、季節に応じた飾りつけをしている。その際、刺激がないように配慮している。	高台にあり窓から広く海を眺めることができ、開放感がある。住宅地のため交通量は限られ、日中でもとても静か。庭もあるため四季の変化も感じられる。リビングは明るく、壁には季節に合わせた飾りを作って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の居場所が確保できるレイアウトとし、入居者様同士の関係性を配慮しながら、安定した生活を過ごすことができるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は可能な範囲で使い慣れた家具等を持ち込んでいただいている。ご本人にとって使用しやすく、馴染みのある環境を施設で作り、不安なく過ごせるように配慮している。	民家を利用した建物のため部屋の面積には違いがある。家で使っていたテレビ、小物入れ、衣装ケース等持ち込まれている。CDプレーヤーで演歌を聞く方もある。家族写真やアルバム等思い入れのある物が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態変化に合わせて、生活しやすい環境整備に努めている。		